

## NPO旭川並びに旭川アドプト・プログラムの広報について（主なもの）

### 1. 新聞

- ・平成13年2月6日（火）山陽新聞  
旭川アドプト・プログラムの内容及び活動予定について紹介。
- ・平成13年4月18日（水）山陽新聞  
4月17日に開催したNPO旭川の設立総会について紹介。
- ・平成13年4月18日（水）中国新聞  
4月17日に開催したNPO旭川の設立総会について紹介。
- ・平成13年4月22日（日）山陽新聞  
NPO旭川の活動紹介と旭川アドプト・プログラムについて紹介。
- ・平成13年6月11日（月）山陽新聞  
6月10日に実施した一斉清掃を紹介。
- ・平成13年6月11日（月）岡山日日新聞  
6月10日に実施した一斉清掃を紹介。
- ・平成13年9月30日（日）山陽新聞  
NPO旭川の活動紹介と旭川アドプト・プログラムについて紹介。

### 2. テレビ、ラジオ、広報誌等

- ・平成13年4月18日（水）山陽放送他  
NPO旭川設立総会の模様を放送。
- ・平成13年7月23日（月）岡山商工会議所会報7月号  
6月10日に実施した一斉清掃を紹介。
- ・平成13年9月20日（木）岡山商工会議所会報9月号  
8月4日に実施した一斉清掃を紹介。
- ・平成13年6月 RSKラジオ、FM岡山  
NPO旭川や旭川アドプト・プログラムについて紹介。
- ・平成13年6月1日（金）岡山市の広報誌6月号  
旭川アドプト・プログラムについて紹介。
- ・平成13年10月9日（火）岡山市ニュースレター  
旭川アドプト・プログラムについて紹介。

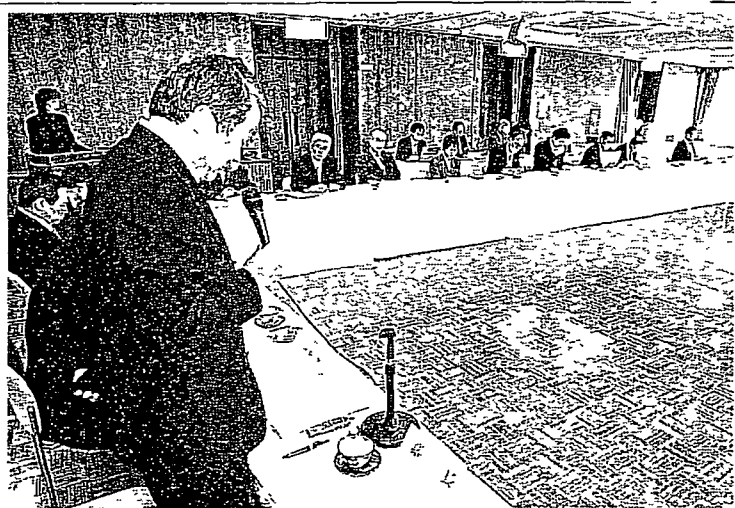
以上

アダプト検討委

# 旭川の「里親」を募集

## 清掃・草刈り奉仕 受け付けから

環境保護団体「旭川を百(本)美しい川に育てる会」(岡崎彬会長)は五日、岡



旭川アダプトプログラム検討委員会であいさつする岡崎会長。岡山商工会議所

イアに参加する住民団体や企業の募集要項を決めた。六日から受け付けを開始する。

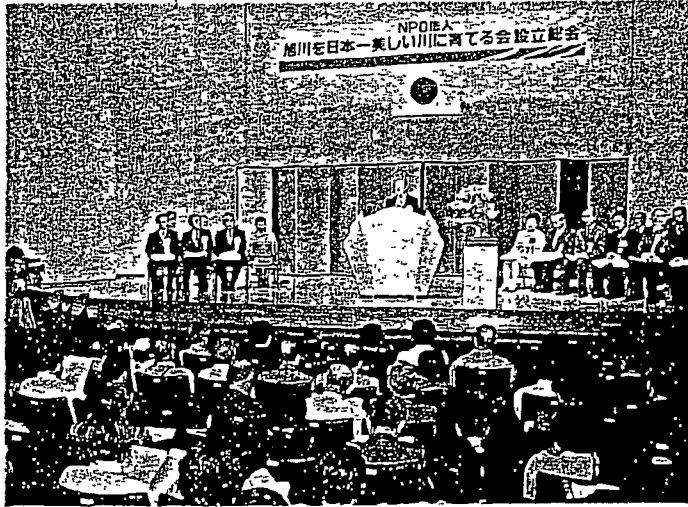
同事業は、同会が旭川を管理する国土交通省岡山河川工事事務所(岡山市鹿田町)から受託した。検討委員会には同会役員や同工事事務所関係者ら約四十人が出席。岡崎会長が「県民の幅広い協力を募り、住民自らの手による環境美化を成功させたい」とあいさつ。

募集要項では、十人以上の住民団体と企業が対象。同会が管理を受け持つ岡山市三野から河口までの旭川(延長十二キロ)について、一グループ当たり延長二百メートルを担当する。年間三回以上の清掃活動を実施してもらい、担当の河川敷には団体や企業名の入った看板が立てられる。活動資金を援助するスポンサー里親(一口十万円)も募集する。

事業開始は四月で、同会は「百グループを目標に募集したい」と話している。申し込み、問い合わせは同

商工会議所内の同会事務局  
(086-2235-5008)。

アダプト制度は、市民や企業などが「里親」となって、仕事や日常生活で使う道路や河川などの公共空間を「養子」とみなして定期的に清掃活動などを行う。



「旭川を日本一美しい川に育てる会」のNPO法人設立総会、岡山市

# 旭川を日本一美しく

## 岡山「育てる会」がNPO法人格取得 住民参加の活動拡大へ

旭川の美化活動に取り組み、岡山「育てる会」がNPO法人格取得した。住民参加の活動拡大へ

「旭川を日本一美しい川に育てる会」のNPO法人格取得した。同会はこれを機に、国土交通省岡山河川工事事務所（岡山市鹿田町）と連携し、住民参加で旭川の清掃や草刈りなどの管理を行う。「旭川アドプト（養子）プログラム事業」に取り組みなど、活動の拡大を図る。

NPO法人の設立総会は、岡山市古京町の岡山衛生会館三木記念ホールに開かれ、岡崎会長が「身近な川を美しく、という一人ひとりの思いが大きな環境問題解決へつながる。NPO法人化を機に、運動の輪をさらに広げたい」とあいさつ。

岡崎会長と同工事事務所の古川博一所長が、旭川アドプトプログラム事業の協定書に調印した。古川所長は「河川は地域共有の財産。取り組みを成功させて旭川の名を全国へアピールしてほしい」とエールを送った。同会は一九九三年、岡山商工会議所が中心になって呼び掛けて結成。現在、旭川流域の二十三市町村や商

工団体、住民グループなど約二百六十団体が加盟し、流域一斉清掃などの美化運動を展開してきた。アドプト制度は、地域住民や企業が「里親」となり、道路や河川を「養子」として清掃などの管理を行う。同工事事務所管内で初めて制度を導入するのに当たり、活動実績を持つ同会がパートナーに選ばれた。

同会は、岡山市三野から河口までの旭川（延長十二キロ）の管理を同工事事務所から受託し、町内会や企業単位などで里親を募集。各里親の担当区域に名前入りの看板を立て、清掃や草刈りをボランティアで実施してもらう。実際の活動は六月をめどにスタートさせる。現在、二十三グループが里親登録している。

環境保護団体「旭川を日本一美しい川に育てる会」(事務局・岡山市)が17日、NPO(民間非営利団体)法人となり、住民参加で継続的に河川敷の清掃管理などに協力する事

業に県内で初めて挑むなど、活動内容の拡充を目指している。これまでの歩みを振り返るとともに、河川を管理する行政と住民との「協働」を模索する同会の取り組みを追った。

# 旭川を日本一美しい川に育てる会

## 行政と住民の「協働」模索

旭川は、鳥取県境の朝鍋(川上村)に源を発り、時代を先取りして児島湾へ注ぐ。本流の長さは百四十二キロで全国二十三位。国土交通省中国地方整備局が中国地方を流れる十三の一級河川で毎年行っている水質調査では、旭川は九五年から九八年まで四年間連続ベスト3入り、九九年も四位という良好な水質を保つ。

翌九四年に初の河川一斉清掃を実施した。参加者は岡山市や建部町などから約千五百人だったが、毎年一回の開催を続けるうちに恒例行事として定着し、年々増加。九九年八月には流域全市町村で約二万人が参加し、源流から河口まで地域住民が河川敷のごみ拾いなどに取り組んだ。二〇〇〇年七月には吉井、高梁川流域にも呼びかけて三天河川の一斉清掃を行った。

### 時代を先取り

「旭川を日本一美しい川に育てる会」は、流域が一体となって河川美化に取り組む、住民が親しみ、憩え

## 自立NPOの法人取得

### 里親事業で広がる輪

る水辺環境を創出し、岡山にまつわる写真コンテストのシンボルである旭川を全国に誇れるものにして、岡山商工会議所が設立を提唱。九三年八月、二十

ボランティア事業を運営するノウハウがなかったこと、住民参加者の募り方など、意見の集約方法などで戸惑うことが多く、苦労しました」と話す。

### 活動費悩み

田輝美町長は「上流と下流

民間のボランティア団体

は「自立」が最大の課題と



川敷で里親を公募。六月スタートを目指して参加団体を募集しており、すでに十三団体から約四百五十人の申し込みがあった。このうち、半数以上がこれまで運動に参加したことのない新しい仲間だ。

昨年の七月の総会で、活動費をねん出する収益活動が組織的にやりやすく、税制上の優遇措置もあるNPO法人となることで自立を果たそうと、法人格取得を目指すことを決定。

一斉清掃で旭川河川敷に投げ捨てられたごみを拾い集める参加者たち。二〇〇〇年七月三十日、岡山市

今月十七日、県の法人認証を得た。

岡山市内で同日、開かれたNPO法人設立総会で、理事長に就任した岡崎彬山商工会議所会頭は「私たちの暮らしに大きな恵みを与えてくれる旭川を、もっと美しい川へ育てていきましょ」と、出席した加盟団体の代表ら約四百人に力強く呼び掛けた。

### 新しい仲間

NPO法人となった同会が最初に取り組むのが、国土交通省岡山河川工事事務所(岡山市鹿田町)と連携した県内初の「河川アドプト事業」。住民や企業・団体が「里親」となり、河川を「養子」として清掃や草刈りなどをボランティアで行う。同会は、岡山市三野から河口まで約十二キロの河

ゆえに、活動費の調達が悩みの一つ。行政からの支援に負うところが大きかった。しかし、財政難の行政からの支援が今後多くは期待できなくなる中、活動を維持し、発展させていくには「自立」が最大の課題と

「新しい活動を展開していきたい」と話す。

また、同会は河川敷の草刈りで集めた雑草をたい肥化し、農家に提供する有機農業ネットワークや、旭川上下流住民の交流支援事業、水辺の教室やキャンプなど青少年健全育成活動を計画。旭川の水や、流域農産物を使った旭川ブランドの特産品開発・販売による地域おこしを兼ねた収益事業の検討も急いでいる。

岡崎理事長は「NPO法人となり、これまでが成長したという喜びの半面、責任の重さも痛感している。流域住民の気持ちを一つに、企業でも行政でもできない活動を展開していきたい」と話す。

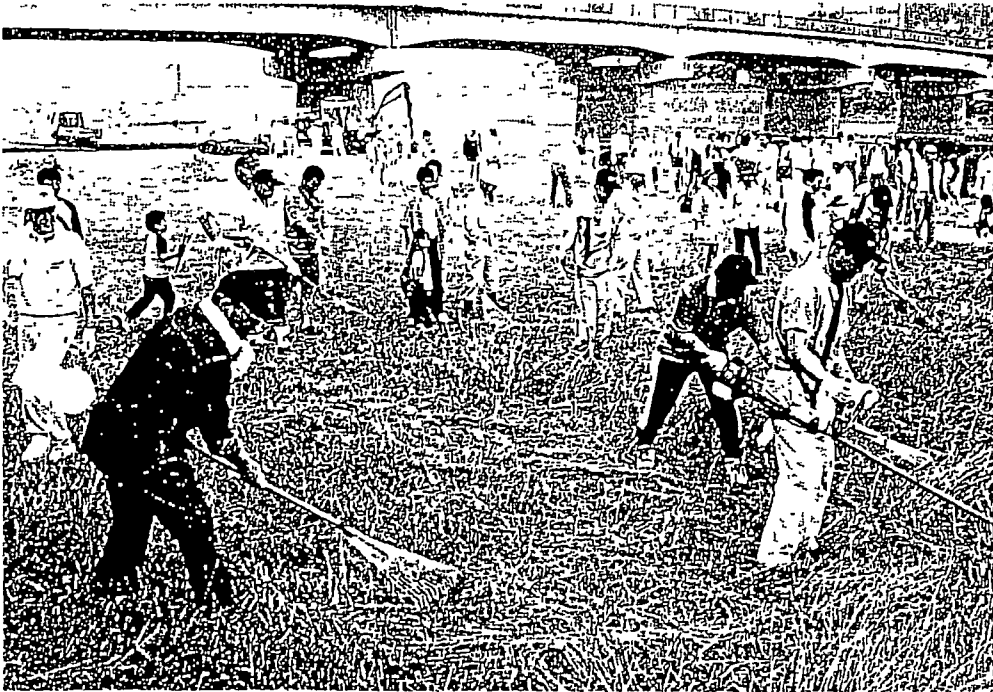
# 旭川 日本一美しく

## 「育てる会」法人化後初のクリーン作戦

旭川の美化活動に取り組むNPO(民間非営利団体)法人「旭川を日本一美しい川に育てる会」(理事長・岡崎彬岡山商工会議所会頭)は十日、岡山市の同川流域で法人化後初の「旭川清流化クリーン作戦」を行い、経済団体、町内会などから参加した約千百人が、ごみ拾いなどの清掃に励んだ。

## 1100人ごみ拾い、草刈り

国土交通省岡山河川工事「連携し、住民参加で旭川の「一する岡山県内初の「旭川ア」事業」の一環。事務所(岡山市鹿田町)と「清掃や草刈りなどの管理を「ドプト(養子)プログラム



清掃に励む「旭川清流化クリーン作戦」の参加者＝岡山市古京町、旭川河川敷

クリーン作戦は、同市三野から河口までの流域十二ヶ、十六ヶ所で実施。このうち同市古京町の河川敷には地元企業、町内会、老人クラブなどから約五百人が集合。岡崎理事長が

「みんなが旭川をきれいにしていく気持ちを持って美化に取り組もう」とあいさつした後、作業を開始した。参加者は、ごみ袋を手に、草の間に投げ捨てられた空き缶、ビニール袋などを拾い集めたが、中にはさびた焼き肉用のこんろを回収する人も。草刈り担当者は草刈り機で、河川敷から土手の斜面まで、伸びた草を丁寧に刈り取った。父親と参加した伊島小五年見垣亮太君(12)は「伊島町は魚捕りが好きなので、川はきれいな方がいい。これからは清掃に参加したい」と話していた。同会は一九九三年、岡商工会議所が呼び掛け発した。流域の二十三市町や商工団体、住民グループなど約二百六十団体に加え、毎年、一斉清掃など美化活動を展開。今年四月、NPO法人格を取得した。

「旭川を日本一美しい川に育てる会」が行った旭川の一斉清掃(8月)。活動の輪は着実に広がっている



# 旭川 守る

PO(民間非営利団体)法人「旭川を日本一美しい川に育てる会」(事務局・岡山商工会議所)は一斉清掃を行った。企業や住民団体などから約千百人が参加。あいさつに立った理事長の岡崎彬・同会

「みんなが旭川をきれいにする気持ちを持って、美化に取り組みましょう」  
岡山市の旭川河川敷で六月、N

議所会頭をこぼし、心の大切さを訴えた。

岡山県民の母なる川を全国に誇れる清流にしよう。同会議所の提唱で一九九三年、流域二十三日町村や経済、住民団体が育てる会

1 ひとこと

## NPO 里親募り清掃

は他区間で県や岡山市が同様の事業を手掛けているが、NPOが主体となるのは全国で初めてという。  
行政主導の場合、清掃で用いるごみ袋などを公費負担していたが、財政難などで支援の限界も見えてきた。NPOだと、活動費をねん出する収益事業ができるナリ

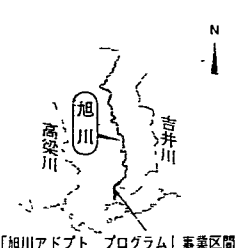
は発足。今年四月の法人化を機に「旭川アドプト(養子)プログラム」事業を推進している。

川を管理する国土交通省岡山河川工務事務所(岡山市鹿田町)との連携で実現した。河口から約十二キロ上流までを対象に、各種団体から旭川の「里親」を募り、個人参加者と共同で清掃や草刈りなどの活動を繰り返す。県内で

ノトを生かせる。

同事務所の松本秀穂副所長は「役所と住民の間にNPOが介在することで、資金調達にとまらせず、意識高揚など幅広い活動が期待でき」と説明する。

「旭川アドプト」には現在、二十九団体千九百七十三人が登録。「社会貢献は企業の使命」と、参加する企業も出てきた。資金援助



「旭川アドプトプログラム」事業区画

するスポンサー里親となったり、農機具の貸し出しなどで協力する方針だ。  
今後は、上流域を含めた流域全体の運動にどうスケールアップするかなどの課題が待ち受けている。この会は「次代を担う青少年へ、防災や旭川にちなんだイベント、特産品開発などを展開しながら、人と人のつながりを広げて

いく」と次のステップを描く。  
八月に行った流域挙げての清掃参加者は昨年を上回った。十月二十八日には本年度三回目の一斉清掃が計画されている。

「親子を育てる」という思いで、清流を取り戻したい。一人ひとりの汗と心が、きっと旭川をきれいにするだろう」  
岡崎理事長は夢に向けて、第一歩を踏み出した。

多くの生命をほぐくみ、恵みをもたらして来た旭川。生活排水による水質汚染、開発に伴う水辺環境の悪化など、時代とともに生態系が崩れ、失われていったものも少なくない。河川の清掃、生き物が住む川の再生、家庭や企業の取り組み、連載企画「旭川」第三回は、清流を守るさまざまな活動を紹介する。  
(次回から3面に掲載)